



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-2 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Our Future Begins Today” 「私たちの未来は、今日より始まる」
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「明日に向かって、今日動こう」
「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
「楽しい例会を」

2017年6月号
NO 490

肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和であります。

ローマの信徒への手紙 8章6節

今年度を振り返って明日に繋げよう 神谷幸男

今年度は、2人のメンバーを天国に送らなければならなかったというクラブにとって実に大きな打撃を経験した。両氏の冥福を祈る。今年度は、クラブ設立40周年の記念すべき年でもあり、一同頑張っただけの成果を上げたと思う。しかし「それなり」であって至らぬこと多々あり、さらにできるだけのことを実行して行きたい。

例会：毎回充実した例会をもつことができた。記念例会、納涼例会、クラブ総会が各1回、文化的内容の卓話例会が9回、YMCA、ワイズメンズクラブ、ユース関係の卓話例会を各1回行った。出席率は77%。病欠者がいたとは言え、もう少し頑張りたいところである。

対外活動：WHOは、8月を除き毎月行っている。毎回おおよそ30～50人の参加者がいる。

諸献金：東日本区で定めた目標額を達成することができた。また、YMCA国際協力募金にも応じた。
会員増強：ここ数年、会員数が17～18人にとどまっておられ、せめて20人が悲願なのであるが、残念ながらその目標が達成できていない。今までは個人の努力に依存しているためか、結果が出せなかった。これからはクラブの組織的会員増強計画のもとに展開していかなければならないと思う。

来年度にぜひ行ってみたいことがある。それは失敗を恐れず地域活動・社会奉仕に関心のある学生との交流関係を築きたい。しかし、今まで学生らとの交流する道筋が見いだせなかった。

毎月の例会会場の隣室に杉並ボランティアセンターが在る。そこにいろいろな刊行物が並べら

(以下P6に続く)

星薬大薬用植物園・戸越公園 WHOウォーキングのご案内

今月のWHOは、6月24日(土)です。星薬科大学の薬用植物園と旧肥後細川家下屋敷の一部、戸越公園、関東随一と言われる戸越銀座商店街を結んで歩きます。

再開発が進むJR大崎駅北口の花と緑の空間で、爽やかな風に吹かれます。JR五反田駅集合です。

7月と8月は、夏休みです。



詳しいコース案内は、p4をご覧ください。写真は、JR大崎駅北側の再開発地域の花と緑の庭園。

クラブ役員

会長 高嶋美知子
副会長 篠原文恵
書記 本川悦子
会計 石井元子
担当主事 宮崎純

5月の記録		ニコニコ	6,850円
在籍者数 16人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	0円
出席者数 13人	コメント 0人	ファンド残高	174,920円
メーカーキャップ 1人	ビジター 1人	ホテル校ファンド	5,500円
出席率 81%	ゲスト 3人	ホテル校残高	105,782円
前月修正 -	出席者合計 18人	WHO参加者	33人

6月例会のご案内

今月の強調テーマ： 評価

6月例会は2016-2017年度最終となりますので恒例によりクラブ総会を行います。また、これも恒例となった東京 YMCA ホテル専門学校の私費留学生への奨学金贈呈式を行います。

日時：6月15日(木) 18:45~21:00

会場：「あんさんぶる荻窪」5F 第2会議室

(杉並区荻窪 5-15-13 TEL/03-3398-3191)

会費：1,500円 (ゲスト・ビジター・メネット)

担当：B班 (石井、神谷、河原崎、竹内、宮崎)

HAPPY BIRTHDAY

メンバー、メネットには該当者はおられません。

開会点鐘
ワイズソング
聖書朗読・感謝
ゲスト&ビジター紹介
奨学金贈呈式
会食

クラブ総会
クラブ役員交代式

ハッピーバースデー
ニコニコ献金
諸報告
YMCA 報告
閉会点鐘

受付 神谷 幸男
司会 石井 元子
会長 高嶋美知子
一 同
神谷 幸男
高嶋 会長
高嶋 会長
一 同

議長 高嶋 会長
司式 山田利三郎

一 同
会 長 他
担当主事・宮崎 純
高嶋 会長

—5月第2例会(事務会)—

日時：5月25日(木)

場所：あんさんぶる荻窪 1F

18:15~21:15

出席者：石井、大野、神谷、篠原、
高嶋、本川、村野、吉田

<報告事項>

①5月のデータを確認した

②5月の経常会計報告を確認した

<協議事項>

▲6月第2例会

日時：6月22日(木)

18:15~21:15

場所：あんさんぶる荻窪 4階
第2教室

▲7月例会

日時：7月20日(木)

18:45~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 4階
第2教室

卓話：キックオフ例会 部長公
式訪問

▲7月第2例会

日時：6月22日(木)

18:15~21:15

場所：あんさんぶる荻窪 1階
第1会議室

①6月に予定していた大橋さんの
入会式は7月以降となった。

②東京 YMCA ホテル専門学校の
学生に贈る奨学金について：

国際ホテル専門学校留学生

マハルジャン・ソル (MAHARJAN SARU)

国籍：ネパール

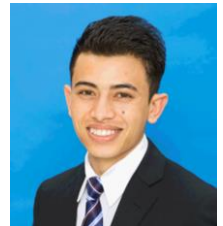
ネパールにて新聞奨学生の採用試験に合格。
日本語学校在籍時は2年間新聞奨学生として
務めた。控えめでおとなしいが、真面目でよ
くコツコツ努力する。リッツ・カールトン東
京に就職内定。



ラウト・アニル (RAUT ANIL)

国籍：ネパール

北九州 YMCA からの留学生。
入学時は日本語レベルが不十分だったが、よ
く努力し、実習前にはかなりスムーズな会話
ができるようになった。
パークハイアット東京に就職内定。



候補生2人にそれぞれ50,000
円を贈ることにした。

④あんさんぶる荻窪が使用でき
なくなっただけからの会場につい
て、荻窪周辺で会場が見つかる
まで山手センターを会場にする。
(書記・本川悦子)



<今後の行事予定>

*7月15日(土)

あずさ部第1回評議会
ホスト：松本クラブ

*10月21日(土) あずさ部会

ホスト：東京西クラブ

*2018年2月10日(土)

あずさ部第2回評議会

ホスト：甲府21クラブ

*2018年6月12日(土)

あずさ部第3回評議会

ホスト：富士五湖クラブ



左から グエン・ビエト・フォンさん(ベトナム)、
チン・カセイさん(中国)、
エンヘヤバル・サインザヤーさん(モンゴル)

－5月例会報告－

5月例会は5月18日(木)あ
んさんぶる荻窪で開かれました。

卓話は東京 YMCA 日本語学院
の留学生3人から「来日して感じ
たこと」を小野実学院長の進行
で、質問形式で聞いていただきま
した。

「1. 日本に来ようと思ったのは
どうしてですか?」「2. 驚いた
ことは?」「3. 帰る前に行きた
い場所は?」の質問に、ベトナム
から来日して1年になるグエン・
ビエト・フォンさんは「自国では
大学を出ても就職が難しいので
日本は良いかなと思ってきまし
た。日本は人を大切に、道は明
るく、パトロールもあり、安全で
す。日本の料理を知りたい。大
阪・京都に行きたい」。

チン・カセイさんは「南京大
学で日本語を学んだ中国人です。
熱意だけでは足りないと思った。
旅行中の日本人のお年寄りとの
出会いもきっかけになって来日
した。自国に比べ若者のマナー
がよくない。道が複雑で迷う。
私の好きなドリアンが少なくが
っかりした。一度行った清水寺
をゆっくり見たい」。

モンゴルから1か月前に来日
したエンヘヤバル・サインザヤ
ーさんは「アニメが好きだが字
幕がなく、高2の夏休みに『み
んなの日本語』の教科書を勉強
し日本に来るのが夢だった。将
来、経済学

者になってアメリカか日本で働
きたい。車やバスの中で、道
でマナーが良く大声で話さない。
肉が好きだが脂肪が多く高い。
野菜も高い。日本で親切にしてい
ただいた人々にお礼を言いたい」と
答えました。

考えさせられることも多く、
若い留学生と楽しいひととき

でした。(村野絢子)

出席者:<メンバー>石井、大野、
神谷、河原崎、篠原、高嶋、竹
内、鳥越、本川、宮崎、村野、
山田、吉田、<メネット>神谷、
<ビジター>小野実(東京多摩
みなみ)、<ゲスト>チン・カ
セイ(中国)、グエン・ビエト・
フォン(ベトナム)、エンヘバ
ヤル・サインザヤー(モンゴル)

－WHO 5月例会報告－ 見沼たんぼの農風景

5月27日は、どんよりとした
薄曇り、蒸し暑さはあっても、
郊外を歩くには、絶好でした。
33人が参加。

JR 大宮駅からバスで20分、
310円のところに目指す見沼
たんぼがありました。まずは、見
沼自然公園。深緑の森をバック
に広い池に咲く睡蓮は、名画の
よう。思わずカメラを向けま
す。

見沼代用水に沿って歩きます。
用水に「代」が付くのは、溜め
池に代えて用水で田畑に水を潤
したという意味があるそうです。
田植えが始まっていました。か
つての部落総出ではなく、苗植
え機を1人で操作し、細い早
苗が風に揺れていました。

鷲神社から、2階建ての鐘楼
兼用の山門が珍しい総持院を
巡り、山門に左甚五郎による龍
の彫刻と龍伝説のある国昌寺
へ。ここで、埼玉県緑のトラ
スト第1号の

自然林を1周して折り返します。

旧名主の深井家の長屋門を見
てからサギ山記念公園で昼食。
付近は、サギが江戸時代から集
団で営巣し、天然記念物として
保護された歴史があります。今
は、美しい記念公園でした。昼
食後は、リーダーが交代、ゆっ
くりと代用水に沿った土手と、
田んぼの中の道を楽しんで、こ
れも名主だった坂東家の古民
家へ。ここから、大宮駅と浦和
駅に向かいました。

ワイズ関係の参加は、石井・
吉田(東京西)、中澤・藤江(東
京たんぼぼ)でした。

個人的には、昼食後早退し、
大宮駅から熱海に向かい、元
国際会長・竹内敏朗さん(熱海
グローリー)のお別れの会に出
席しました。10年ほど前、WHO
で東京・大手町の将門塚前を歩
行中、マイクロバスで通った竹
内さんに声をかけられました。「
真鶴に来たらマイクロバスで
案内するよ」明るい笑顔を車
中で思い浮かべていました。(吉
田明弘)

星薬大薬用植物園・戸越公園 WHOウォーキングのご案内

期 日：2017年6月24日

(第4土曜日)

コース：JR・五反田駅－<東急
池上線>－戸越銀座駅－星薬
科大学・薬用植物園－歴史資
料館－戸越銀座商店街－戸
越八幡神社－行慶寺・文庫の
森－戸越公園－百反通り－
大崎ゲートシティ－JR・大
崎駅

集 合：JR 五反田駅・東急線
(池上線) 乗り換え口改札前
午前9時40分

解 散：大崎駅 午後2時30分
携行品：弁当、飲料(かならず)、
敷物、雨具、日射対策品、
名札

参加費：300円(施設入場料、
交通費は個人負担) 初参加
の方は別に名札代として
200円



木原 洸さんを偲ぶ

2005年6月16日 東京西クラブ入会
2016年12月2日逝去 享年75才

藤井寛敏（東京江東クラブ）

木原とは大学で工学部と経済と学部こそ違ったが同じテニスクラブの同期で、練習か何かの帰りで家が近くであったのもう1人下宿が近い奴と3人で気が合い、青臭い議論を戦わしながら50年以上もの付き合いが始まった。彼のテニスは「舞うが如く」で、先輩から「木原、蝶々採りをしているんじゃないんだからな」などといわれていたのを覚えている。腕前はというと同じ卓球上がりの2年後輩の奥方、邦枝さんの方が確かだった。

彼は誰彼の区別なく面倒をよく見ていたし、クラブの運営について私の良き相談相手であった。卒業時、「トッケラ会」（ラケットの反対）という同期会を作り、毎年会っていた。その内それぞれ仕事や子育てで忙しくなり、その後、またそれぞれ時間が取れ出した20年ほど前から、彼の職場の三鷹の船舶研究所でテニスと花見の会を数年間やっていた。

そして10年程前に1年先輩の1人が軽井沢にペンションをオープンしたのを機に男女15、6人で1泊の秋季キャンプ、春のデイキャンプと学生時代の合宿に見立ててテニス、花見を楽しんでいた。体調を崩した後、一時回復した時には特別料理を用意して参加してもらったのが最後となった。

同期の様子に木原の印象を「一言でいうと」との問いに（今と学生時代を混同しているようだが）「オヤジギャグ」と「昭和のオヤジスタイル」（合宿でのステテコと丸首シャツ）とすぐ答えが返っ

てきた。話し好きで記憶力が良いからどんな話題にも参加できたとし、イニシアティブもとった。

長年、研究所の副所長として（所長は旧運輸省から）実質大勢の職員を管理し、国際会議にも政府代表として出席して船舶関係の国際規格の制定に貢献した。

数年前、彼が邦江さんの通う教会の牧師さんと仲が良いという話を聞き、ワイズを薦めた。

会長を引き受け、そろそろ実力を発揮する頃合いに体調を崩し、あっという間に我々の前から走り去ってしまったのは返す返すも残念至極である。あの人なつこい笑顔はもう見られない。

山田利三郎（東京西クラブ）

初めてお会いしてお話をお伺いした時からダジャレがうまく、面白く、おかし会話の中にもアカデミックな方と感じました。

木原さんがISO（国際標準規格）の日本委員をなさっておられることを知り仕事の上で色々と考えられることを伺って勉強になりました。ISOのそれぞれの条項を取得していないと輸出が不利になり当時わが社も申請に関わることに関心がありましたので。

木原さんがバングラデシュ・チッタゴンの廃船の現場へ日本の代表として現地に向いておられた時の話は、私もYMCAの国際委員長として数回バングラデシュへ行っておりましたので現地の人々の生活改善、経済の発展に論議を重ねた事は懐かしい思い出です。

ご冥福をお祈りしますとともに奥様のご多幸を祈願します。

大野貞次（東京西クラブ）

木原さんは元国際会長の藤井寛敏（東京江東クラブ）ワイズの慶応大学のテニス部の仲間・学友として紹介され東京西クラブに入会された。

木原ワイズは慶応大学工学部機械科を卒業後、三鷹にあった船舶技術研究所機関に入られ長年船舶関係の仕事をされていた方で、その功績を評価され叙勲を受けられた。

入会された時の印象は知識人でスポーツマン、そして活発な方と強く思いました。その通りで入会された翌月には東京西クラブで『船舶と環境問題』と題し卓話されてから積極的に他クラブに出向き卓話をされました。横浜の国際大会では、委員として環境問題を担当され大いに活躍され、2012年から会長を務められ、2期目の半ば2014年12月に病に倒れ病と闘われました。

一時良くなり以前から自宅に先生を迎え開かれていた絵画教室に復帰され、ご一緒に絵を学び楽しい時を皆さんと過ごしました。しかし再発され再入院、そのとき書きかけの絵が気になり先生と一緒に病室で絵筆をとられ絵を完成された（2016年11月半ば）半月後に天に召されました。その絵が彼の最後の作品となりました。

私にとって1941年生まれの同期としてワイズ活動だけではなく多くの事で良き交わりさせて頂いてきたので、クラブにとってまた個人的にも非常に残念でなりません。ただ安らかにお休みくださいと祈るばかりです。



堀内浩二さんを偲ぶ

1976年7月11日 東京西クラブ入会チャーターメンバー

2017年4月7日逝去 享年89才

佐野守さん(東京グリーンクラブ)

堀内さんとの出会いは YMCA の中央体育館時代リーダーになり、先輩として色々なアドバイスを頂きました。堀内さんは A ジムで長谷部リーダーとデンマーク体操を指導していました。私は B ジムで卓球を指導していました。堀内さんの指導の声が大きかったので体育館の隅々まで聞こえて、元気をメンバーがもらいました。

その後 YMCA から長谷部リーダーと 1 年間デンマーク体操を勉強にデンマークに行きました。デンマーク体操を全国に広めた第一人者です。リーダーとして YMCA での活躍は全国の YMCA から注目されました。人柄も多くの人に愛され、いつも笑顔が絶えませんでした。私をリーダー会議長に推薦してくれたり、色々教えて頂きました。また、その後東京西クラブ設立の時にチャーターメンバーに推薦して下さいましたが、その頃は仕事のために入会出来ませんでした。

体育館では当時リーダーが受付をしたり会員から相談を受けたりしましたが、堀内さんが先頭に立って対応していました。笑顔のこーちゃんが好きです。

吉田明弘(東京西クラブ)

堀内浩二さんは、「デンマーク体操の堀内」「ウェルネスのこーちゃん」と、全国ブランドでした。

東京 YMCA 体育館で、ボランティアリーダーとして、毎週 1 回夜、200 人ほどを対象にデンマーク体操の指導を 60 年間以上続けられました。毎年夏休みの近所の子どもラジオ体操や、地域の小グループでも指導されていました。学生時代に体育を学んだわけではなく、YMCA で体操に触れ、クラブに入会してからデンマークに研修に行かれました。休みなく変化のある体の動きに楽しいおしゃべりが入り「漫談体操」と人気でした。

堀内さんは、東京下町の育ち。お祭り騒ぎが大好きでした。反面、律儀で礼儀正しい方でした。経営する地図会社を人手に渡す時も、自分を犠牲にして部下のことを考えられておられました。

ワイズの例会の帰りに、地下鉄を先に降りる時には、立ち上がって一礼し、出口のところで、もう一度礼をして降りていかれました。

入院して、歩行も会話もままならぬようになった時、「東京西クラブも 40 周年を迎えましたよ」

と報告したら、ひとこと「よかった」と言ってくださいました。

最後にお話しできたのは、今年の 3 月 3 日でした。「また来ますからね」と声をかけたら、「お構いもしませんで」。これが最後の会話でした。3 月 23 日にご子息真一郎さんから、会費の振込がありました。4 月 7 日、逝去。最後まで、まぎれもなく「Y の人」「ワイズマン」でした。

石川喜代子さん(杉並 YMCA・WHOメンバー)

お体がお悪いとのお話を伺っておりましたので心配しておりました。お見舞いにとおっしゃるのですが、こんなに早くお別れがあるとは、悲しみで一杯です。

ウォーキングの準備体操の時のお元気な声が忘れられません。歩きはじめると曲がり角には立っておられ、皆さんが迷子にならない様にと気を使っていたきました。本天沼集会所での体操教室も短い間でしたが、皆さん楽しみに集まって来て堀内さんの元気なお声で手足をのばしました。

先日のお別れの折には“本当に永い間いろいろ有難うございました。”とお別れのお礼を申し上げました。静かなお顔でした。

YMCA Today

◇4月13日、「第27回東京YMCAチャリティーゴルフ大会」を開催し、31グループ122人が参加しました。支援金504,000円はフレンドシップファンド(経済的困難を抱える子どもたち支援)や、障がい児及び不登校児支援活動のために用いられます。

◇4月15日、毎年恒例の「高石

ともやバン格拉デシュ奨学基金チャリティーコンサート」が日本基督教団浅草教会で開催され、約100人が来場しました。東京ーバン格拉デシュパートナーシップの奨学金として、益金15万円をご寄付頂きました。現地の子どもたちの生活や教育を継続的に支えて頂いています。

◇第20回会員芸術祭のオープニ

ングは6月24日です。会期は6月26日～7月1日で、東陽町センターでの開催となります。

◇今年も9月23日(土)に「第31回東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン2017」を開催いたします。昨年は雨で中止になりましたが、今年は天候に恵まれると良いですね。

(担当主事・宮崎 純)

「百人一首・十八番の思い出」

石井元子

最近、八十路に足を踏み入れる日が近づくにつれ、戦後の貧しかった子供時代の思い出が懐かしく蘇るようになった。数日前の事がすぐに思い出せないのに、昔の事はすばやく鮮明に浮かんでくる。まさに老化現象である。物の満ち溢れた豊かな生活を享受しているうちに、年と共に物欲がなくなり、その反動で戦後の何もない時代が懐かしいのかもしれない。特に両親が苦労しながら、一生懸命に愛情深く育ててくれた姿を思い出す。

そんなある日、テレビで「ちはやふる 上の句、下の句」の上下2本の映画を見る機会に恵まれた。百人一首好きな高校生が歌留

多同好会を作り、集まった5人のメンバーで全国大会を目指すという青春映画である。見ているうちに、戦後2年が過ぎた頃、弟が小学生となり、小学4年位の私と両親の4人で、百人一首のかかるた遊びをしたお正月の団欒を思い出した。当時の元旦は、おせち料理もお雑煮も乏しく、年始客もなく正月休みの父と家族4人でのおんぼろと茶の間にいた。母が突然奥座敷に入り、母の桐箆笥の上に載っていた美しい木箱を持ってきた。中に入っていたのが、初めて目にする百人一首の歌留多だった。母が取札を畳の上に並べ、百人一首の遊び方を教えてくれたと思うが、平仮名を覚えてばかりの弟と歌の意味がまったく分からない私が、どのように理解し

たのか定かではない。着物姿の父が端然と正座し、百人一首の読み手になってくれたのが嬉しかった。そして母が一番大切な事を教えてあげると云って、秘密を話すような口振りで「十八番(おはこ)」の話をしてくれた。一首だけ、絶対に他人に取らせないで必ず自分が取る札を決め、その歌を自分の「十八番」にするの。あなたに私の子供時代からの「十八番」を譲ってあげると云って、優しく笑いかけた。その歌が

「久かたの光のどけき春のひにしづごころなく花のちるらむ」
ちなみに、母の名前は静子(しづこ)という。それ以来、百人一首を並べるのが元旦の恒例行事となり、私は「十八番」の札を目の前に置き、一心に取り続けた。

(P1からの続き)

れているラックがある。ふと同センターの情報誌である『ボラン・て』を見ていたら、杉並区内にある6つの大学、短期大学のボランティアサークルの特集が掲載されていた。

杉並ボランティアセンターが、昨年5月より「イマドキの学生事情～ボランティアってどうよ?!」と題してインタビュー新企画を展開、明治大学を皮切りに東京立正短期大学、立教女学院短期大学、女子美術大学短期大学部、高千穂大学、東京女子大学の学生、教授とのインタビュー記事を2016年5月号から隔月に2017年3月号までに掲載していることを不覚にも今年の5月に発見した。まさに地域奉仕・社会奉仕に関心のあるユースたちが多数いることが示されていた。

彼らとの交流を試み、今まで手が回らなかったわがクラブのユース関連活動に繋げられれば素晴らしいことだと考えている。

杉並チャリティー・ウォーク 2017

17年前に杉並ボランティアセンターを中心に集まっていた仲間と立ち上げた「NPO 法人未来をつなぐ子ども資金」イベントです。かつてこの話を本間立夫さんに話をしたとき、是非ワイズも加わってやれと、はっぱをかけられたことがありましたが、ワイズになじめないところもあって今に至っています。

さて、杉並チャリティー・ウォーク 2017 [5月21日(日)実施]を簡単に紹介します。

当日は好天に恵まれ、仮集計ですがボランティア、スタッフを含め858人が参加。杉並チャリティー・ウォーク参加者は高円寺駅周辺の商店街をはじめ緑や街並みの中を散策、ゴールではお楽しみ抽選会で協賛各社から提供の景品等を手にして、途中事故もなく無事に1日を過ごしました。

「楽しく歩いてボランティア」というスローガンのもと、ワンコイン(500円)の参加費で集まったチャリティー資金は寄付金を

含め350,106円となり、このチャリティー資金はその全額を助成原資に組み入れ、9月に公開選考会を開催して杉並で子ども達のために活動されている団体・グループへ資金助成を行う予定です。(神谷幸男)

編集後記

わがクラブの重要メンバーであった故堀内浩二さん、故木原洗さんの追悼文を寄稿して下さった6人の方々に感謝申し上げます。

また、いつものように原稿を寄せていただいたメンバーの方々に感謝申し上げます。私事ながら、数日前から流行性結膜炎とやらに罹患し、文字がよく読めない書けないで、原稿が大変遅くなってしまいました。後期末を迎え今年度の活動を振り返ってみると決して十分とは言えないかもしれませんが、それなりに良い働きがなされたものと、共に喜びたいと思います。(SK)